

中学校論題の背景と予想される議論の解説

特定非営利活動法人 全国教室ディベート連盟 論題検討委員会 市野敬介

●論題の背景

<§1 そもそも「レジ袋」とは>

私事で恐縮ですが、第2回・第3回のディベート甲子園に高校生として出場した私も、昨年春から社会人になりました。それにともない、茨城県内の6畳一間のアパートで一人暮らしを始めました。炊事・洗濯などを自分でやっています。

毎日、様々なお店で買い物をしています。昼休みや会社帰りにコンビニエンスストアで弁当や飲み物を買います。スーパーマーケットや、近所の八百屋さんや肉屋さん、魚屋さんなどで、どんな料理を作ろうか悩みながら買い物をするのは、仕事のことを忘れられるいい時間です。ホームセンターや電気屋さんでできた電球や電池を買い替えることもあります。買い物のほかにも、仕事で着ているスーツはクリーニング屋さんで洗濯してもらいます。週末はレンタルビデオ屋さんで映画のビデオを借ります。その時、お金を払った後に商品を持ち帰るときに登場するのが、プラスチック製の手提げ袋、「レジ袋」です。

(注：肉や魚のパック、野菜などの商品を個別に包んだり、入れたりするビニール袋は、今大会の論題では「レジ袋」には含みません。)

普段はできるだけマイバッグを持ち歩いている私ですが、部屋の中を見まわしてみると一ヶ月の間に結構な枚数のレジ袋を受け取っています。そしてそれは……ゴミとして捨ててしまいます。みなさんの家でもどれだけの枚数を受け取って、捨てているのでしょうか？

<§2 命短し、ポイせよ「レジ袋」？>

あらためて考えてみると、レジ袋がその役割を果たしている時間はとても短いものです。レジで精算をして商品を袋に詰めてから、家や仕事場に商品を持って帰るまではレジ袋はその役割を立派に果たしています。しかし、いざ商品を袋から出してしまえば、そのままゴミとしてゴミ箱に入れ

られてしまうことがほとんどです。そのままとはいかなくとも、他の生ゴミなどを入れてゴミ箱に入れられてしまうこともあるでしょう。レジ袋はまさに「使い捨ての象徴」といえるでしょう。

コンビニエンスストアなどでは、温度を保つサービスとして、温かい商品と冷たい商品を別のレジ袋に入れて渡してもらえます。無料で、手軽で便利なレジ袋ならではのことでです。

しかし、レジ袋はその手軽さゆえに、あまりにも簡単に捨てられてしまいます。私がこれまでに目撃した最短の例では、コンビニで肉まんを買って、レジ袋に入ったものを受け取りました。そのお客さんは店の外ですぐに肉まんをほおぼりました。レジ袋は薄紙とともに店の外のゴミ箱に入りました。その時間わずか10秒足らずでした。あっという間の短い命だったのです。

<§3 ゴミとしての「レジ袋」>

そんな気軽に便利なレジ袋は、ゴミになった後には結構な厄介者になってしまうようです。

燃えるゴミとして焼却処理される場合には、レジ袋は焼却炉の中で高温を出し、それが焼却炉を傷める原因にもなります。

燃えないゴミとして地中に埋められて処理される場合には、土に分解されないために、そのまま残ってしまいます。それどころか、プラスチックの安定剤や着色料などが流れ出してしまうこともあります。また、その袋の中に別のゴミを入れていた場合には、そのゴミを分解する邪魔をしまうのです。

また、心無い人が自然の中にそのまま捨ててしまった場合には、景観を悪くするだけでなく、動物がそれを飲み込んでしまうこともあります。極端な例かもしれませんが、1984年、イタリアではレジ袋を50枚ほど飲み込んだクジラが窒息死して海岸に打ち上げられた事件が起こり、レジ袋を有料化するきっかけになりました。

< § 4 資源としての「レジ袋」 >

プラスチック製であるレジ袋の原料は石油です。では、レジ袋のために、どれだけの石油が日本国内で使われているのでしょうか？

読売新聞 2000年4月4日の記事には、以下のようなデータが載っています。

まずどれだけのレジ袋が消費されているのかを考えなければなりません。日本全体で使用されているレジ袋は年間280億枚といわれています。そして大きいサイズレジ袋1枚を製造するために必要とされる材料と製造エネルギーを原油に換算すると、約20.6ミリリットルという試算が出ています(日本生協連の試算)。それらをあわせて考えると、1年間に5億7800万リットルの原油をレジ袋のために消費していることとなります。なんとそれは、日本の原油の1日分の輸入量に近い量なのです。

< § 5 杉並区の「レジ袋税」条例 >

そんな無料で手軽なレジ袋に対して、2002年、東京都杉並区ではある条例が成立しました。それが、スーパー・コンビニエンスストアなどの小売店や、クリーニング店・レンタルビデオ店などの商品を持って帰る際に、プラスチック製のレジ袋を受け取った買い物客に1枚5円を課税する「すぎなみ環境目的税」条例です。

ただし、この条例はすぐに実施に移ったわけではありません。現在では、買い物袋を持参しレジ袋を使わない人にシールを発行して、二十五枚たまと百円の金券と交換する「エコシール制度」を導入しています。それでもレジ袋の消費が目標よりも減らない場合にはじめて実施に移される予定となっています。今回の論題は、その「すぎなみ環境目的税」を参考にしました。

杉並区が1500人に対して行ったアンケートでは、実際にレジ袋税を実施して1枚を受け取るごとに5円を払うことになると、75%の人が買い物袋を持参するようになる、との結果が出ています。

また、実際にレジ袋を有料化したお店では、レジ袋を受け取ることを辞退するお客さんが増えるという結果も出ています。精算するときに5円払うようにするだけで、レジ袋を受け取らないように意識を変えろということでしょう。

< § 6 海外の「レジ袋税」 >

ヨーロッパでは、レジ袋は有料化されている国が多く、先ほどのイタリアの他にも、ドイツ・フランス・スウェーデン・ノルウェー・デンマークなどでも実施されています。

アイルランドでは、2002年3月から、1袋0.15ユーロ(15セント、日本円に換算すると、約20円)の課税を行いました。その結果、店で使われるレジ袋が約90%減少したそうです。その税金で集まった、約350万ユーロが国の環境ファンド(基金)に入り、環境対策事業や研究のための資金にあてられることになりました。

そのほか、お隣の韓国では、レジ袋の無料配布を禁止し、違反したお店に罰金を科す制度を導入しています。

< § 7 「レジ袋税」導入でお店は >

実際にレジ袋税を導入すると、レジ袋の利用にお金がかかるため、マイバッグなどを持つようになって、レジ袋の使用量が減ることはわかりました。しかし、その影響が出るのはお客さんだけではありません。お店にとっては問題がでてくるのが予想されます。

まず、お店の人が税金を納めるためにレジ袋を渡した枚数をカウントしなければなりません。その手間がかかります。レジの機械で自動的にカウントできればいいのですが、そういったお店ばかりではありません。また、スーパーであっても、レジを通り抜けた後にかごの中の商品を詰めるサッカ一台でも袋をとった場合にそれをカウントしなければなりません。

他にも、普通のかばんなどを持参した客が、商品を入れて持って帰ると、万引きをする心無い人との区別をつけることが難しくなるでしょう。

さらには、スーパーやコンビニなどは、2000年から施行された「容器包装リサイクル法」によって、レジ袋の使用枚数に応じて日本容器包装リサイクル協会に委託金を支払うことが義務付けられています。そのお金も、商品の価格やサービスの料金に含まれているのに、税金を上乘せしてしまうのはお客さんにとって二重の負担になるのではないかと、という反発の声も上がっています。

●予想される議論

< § 8 メリットの一例 >

・レジ袋の焼却が減る

ゴミとしてレジ袋が焼却処分されている地域では、それだけ焼却されるゴミの量が減るので、焼却場から大気中に排出される温室効果ガスの削減が期待されます。また、焼却炉を傷めなくてもすみすみますし、焼却する経費が少なくなるので、地方自治体の出費も減るでしょう。

・レジ袋の埋め立てが減る

ゴミとしてレジ袋が埋め立て処分されている地域では、埋め立てたプラスチック製のレジ袋が分解されずに永遠に地中に残る形になるので、分解されにくいゴミが減りますし、地中に化学物質が流れ出す量も少なくなります。

・原油の資料量が減る

レジ袋の消費量が減ることは、それは原料である石油の消費量を減少させることとなります。原油を多く採れない日本は、石油を輸入に頼っているわけですから、資源の節約ができることは良いことでしょう。

< § 9 デメリットの一例 >

・お店の人の事務負担の増大

レジ袋税を納めるために、客に渡したレジ袋の数を数えたり、集計したりしなければならないので、そのための負担（手間）がかかることとなります。特に事業規模が小さく、従業員の少ない店であるほど、その負担感は強くなります。

・買い物の際の負担の増加

レジ袋を利用すれば、その分だけ買い物代金が上昇することとなります。また、何も持たずに店に入り、レジ袋を利用すればそのまま5円を払わなければいけないので、ちょっと立ち寄って買い物することを控えるようになるかもしれません。

・万引きの温床になる

レジ袋ではなく、持参した袋に商品を入れる人が増えるので、それが代金を支払った後のものかどうかの見分けがつきにくくなります。「これは購入した後のものである」と主張されてしまうと、監視する者にとっては、それ以上追求しづらくなります。逆に、常に監視しようとして警備する人を配備したりすると、お店の負担が増えます。

< § 10 メリット・デメリットの比較 >

「レジ袋税」は私たちの「使い捨て生活」に一石を投じるものといえます。

レジ袋税を導入するべきである、という立場(肯定側)に立てば、私たちが消費者として受ける不便さや負担するお金、お店の事務の負担(デメリット)があるものの、地球環境に優しい(メリットのある)生活をしなければならないと主張し、その理由を説明しなければならないでしょう。

逆に、レジ袋税が必要でない立場(否定側)に立つのであれば、地球環境への影響(メリット)は大きくないのに、私たちが負担を増やさなければならない(デメリット)のはおかしい、と主張し、その理由を説明しなければならないでしょう。

環境を大事にする立場をとるのか、生活の便利さを重視する立場をとるのか、視点を定めてから比較をすると良いでしょう。確かに、環境問題を解決するためには、レジ袋税よりももっと効果の大きい政策(環境税の導入など)がいっぱい考えられます。しかし、その中の小さな一歩としてこの税を歓迎するべきか、小さな一歩であるがゆえに、わざわざ導入しなくてもいいのか、ジャッジを説得するための立場は様々考えられます。いろいろな資料を読み、顧問の先生や全国教室ディベート連盟スタッフの人などと相談しながら、ディベートをしてください。

私の故郷・愛知で開催される10年目のディベート甲子園。どんな熱い議論が交わされるのか楽しみです。モリゾーやキッコロ共々、大会会場にてお待ちしております。

参考文献

読売新聞・2000年4月4日

東奥日報・社説2002年3月28日

杉並区ホームページ

<http://www2.city.suginami.tokyo.jp/library/library.asp?genre=48>